学校番号	3030

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	『詳説　日本史』（山川出版社）						
副教材等	『新詳　日本史』（浜島書店）・『最新　詳述日本史史料集』（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

グローバル化・情報化など複雑化をきわめる現代社会に生きる我々であるが、現代とは過去の歴史の積み重ねの上に成り立っているものである。よって歴史を学ぶことは、現代の日本の諸課題とその展望を探究することである。以下の点に留意して主体的に歴史を学ぶことにより、生きる力を養ってほしい。
・歴史という時間軸と、現代の我々とのつながりを感じる。
・わが国に残された国民共有の財産たる資料・史料に触れ、物事を深く考察する。
・歴史事象に対して「なぜ」の視点を持つ。
・国内外の地理的条件や歴史的条件をふまえつつ、現在の日本およびその歴史のあり方を考える。
・わが国の文化がいかなる特色をもち、いかなる伝統を形成してきたかについて認識を深める。

2　学習の到達目標

・わが国の歴史の諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に捉え理解し、諸資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
・わが国の歴史の諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色など歴史的な見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に考察し表現することができる。
・よりよい社会の実現を視野に歴史的な課題を主体的に探究する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	わが国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に理解し、諸資料をもとに情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	わが国の歴史の展開に関わる諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを様々な観点に着目して多面的・多角的に考察し、見出だした課題についての構想や結果を効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができている。	わが国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、よりよい社会の実現を視野に、主体的に探究しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、他国を尊重することの大切さについての自覚を深めている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期中間	日本文化のあけぼの	・文化の始まり ・農耕社会の成立 [主題学習] 歴史資料と原始・古代の展望 ・古代社会と海外との交流 ・木簡から古代国家を探る	a:日本列島における旧石器文化・縄文文化・弥生文化の時代についてアジア大陸を含めた地理的な要因と関連付けて理解し、資料から得られる情報を収集し読み取る技能を身につけている。 b:考古資料や文献資料にもとづき、多面的・多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 c:各考察を通じて、旧石器・縄文・弥生文化の特色を明らかにしようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・提出ノート ・ワークシート ・外部施設見学や外部事業への参加
	古墳とヤマト政権	・古墳文化の展開 ・飛鳥の朝廷	a:古墳・飛鳥時代の政治・文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して理解している。 b:中国大陸・朝鮮半島との交流について、国内外の資料をもとに多面的・多角的に考察し表現している。 c:中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、古墳・飛鳥文化の展開や推古朝の政治についての課題を主体的に追究しようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・提出ノート ・ワークシート ・外部施設見学や外部事業への参加
	律令国家の形成	・律令国家への道 ・平城京の時代 ・律令国家の文化 ・律令国家の変容	a:日本における律令国家の形成・発展・変容、及び密接な関連がある仏教文化について、東アジアとの関係の変化や社会の変化に着目して理解している。 b:東アジア世界との関わりを踏まえて、日本における律令国家の形成・発展について考察し、根拠を示して表現している。 c:東アジアとの関係の変化や社会の変化の考察を通じて、日本における律令国家の形成・発展とのつながりや課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・提出ノート ・ワークシート ・外部施設見学や外部事業への参加

前期期末	貴族政治の展開	・摂関政治 ・国風文化 ・地方政治の展開と武士	a:日本における律令体制の政治・社会・文化の変容について、国際関係の変化も踏まえ、諸資料にもとづいて理解し、その知識を身につけている。 b:国際関係の変化や政治・社会の変化を踏まえ、王朝国家・国風文化の特色について考察し、根拠を示して表現している。 c:東アジア情勢の変化や地方の動向をふまえ、平安時代の王朝国家・国風文化の繁栄と変質について主体的に追究しようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・提出ノート ・ワークシート ・外部施設見学や外部事業への参加
後期中間	院政と武士の躍進	・院政の始まり ・院政と平氏政権 [主題学習] 歴史資料と中世の展望 ・絵画から中世社会を探る	a:諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 b:武士の台頭の契機、土地制度の変容について考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。 c:中世社会の特色について、資料からの情報をもとに多面的・多角的に考察することを通して探究しようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・提出ノート ・ワークシート ・外部施設見学や外部事業への参加
	武家政権の成立	・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会 ・モンゴル襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化	a:諸資料から情報を読み取り、鎌倉幕府の政治や朝廷との関係、宗教や文化の特徴について理解している。 b:鎌倉時代の政治・外交・経済・産業・文化について、多面的・多角的に考察し、根拠を明確にして表現している。 c:日本における前期中世国家のあり方について主体的に追究しようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・提出ノート ・ワークシート ・外部施設見学や外部事業への参加

後期期末	武家社会の成長	・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・室町文化 ・戦国大名の登場	a:鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移や産業や村の発達、外交の特色について、諸資料から情報を読み取り理解している。 b:南北朝期以降の政治・外交・経済・文化の背景や特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 c:南北朝期以降の政治や国際情勢の変遷、文化の特色について、諸資料の活用や鎌倉時代との比較を通じて相違を見出し、課題を主体的に追究しようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・提出ノート ・ワークシート ・外部施設見学や外部事業への参加

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度